

2017年度 本州日本海におけるサケ回帰状況  
(第1報：11月30日現在)

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
日本海区水産研究所 資源管理部  
さけます調査普及グループ

- ・11月30日現在までの本州日本海側（秋田県～石川県）のサケ来遊数は前年を上回っているが、平年より下回っている。
- ・富山県の河川では、10月下旬に発生した台風21号、22号の豪雨によりサケ捕獲施設が破損しサケの遡上の盛期に捕獲が行えなかった。

1. サケ来遊概況

11月30日現在までの本州日本海側（秋田県～石川県）におけるサケ来遊数（沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計）の累計値は53.8万尾（前年同期：107%）と前年を上回りました。平年同期（1997～2016年の平均値、60.5万尾）との比較では89%という状況で、2001年とほぼ同様の水準となっています（図1）。

河川捕獲数の累計値は27万尾（前年同期：108%）と前年を上回り、平年同期（28.8万尾）との比較では94%となっています。

沿岸漁獲数の累計値は26.8万尾（前年同期：106%）と前年を上回り、平年同期（31.6万尾）との比較では85%となっています。

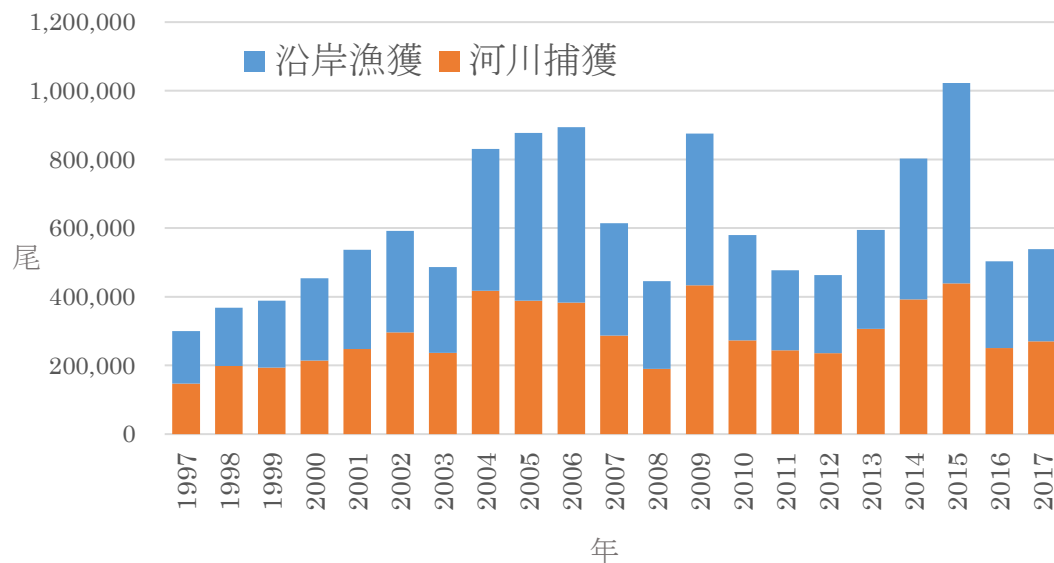


図1 9月1日～11月30日までの本州日本海側におけるサケ来遊数（累計値）の経年変化

## 2. 年齢別河川捕獲数

11月30日現在、年齢が判明している川袋川、牛渡川、名立川の3河川(図2)について、年齢別に河川捕獲数を年間の累積数でまとめ、11月の年齢が判明していない三面川、庄川、手取川については、10月末までの年齢別の河川捕獲数と11月末までの河川捕獲数をまとめています。



図2 2017年度 年齢調査河川

秋田県の川袋川では、捕獲数は約19千尾で前年比202%と前年を大きく上回りましたが、2006～2016年の平均に対しては94%の捕獲数となっています(図3)。

2017年の捕獲数の年齢割合は、3年魚が69.7%を占め、4年魚が26.5%、5年魚3.6%、2年魚0.2%となっており、3年魚は、2006年以降で最も多くなっています。

山形県の牛渡川では、捕獲数は約15千尾で前年比72%と前年を下回り、2006～2016年の平均に対して64%の捕獲数となっています(図3)

2017年の捕獲数の年齢割合は、4年魚が59.4%を占め、3年魚が23.8%、5年魚16.8%となっておりです。

新潟県の三面川では、捕獲数は約30千尾で前年比156%と前年を上回り、2006～2016年の平均に対して147%の捕獲数となっています(図3)

新潟県の名立川では、捕獲数は約 9.6 千尾で前年比 77%と前年を下回り、2006～2016 年の平均に対して 72%の捕獲数となっています（図 3）

2017 年の捕獲数の年齢割合は、4 年魚が 71.6%を占め、3 年魚が 25.6%、5 年魚 1.9%、6 年魚 0.5%、2 年魚 0.4%となっており、5 年魚は、2006 年以降で最も少なくなっています。

富山県の庄川では、捕獲数は約 5.7 千尾で前年比 31%と前年を大きく下回り、2006～2016 年の平均に対して 21%の捕獲数となっています。これは、10 月下旬に発生した台風 21 号及び 22 号による河川の増水により、サケ親魚を捕獲する施設が被害を受けたため、現在は復旧しましたが、来遊盛期に捕獲が行えず捕獲数が減少しました（図 3）

石川県の手取川では、捕獲数は約 4 千尾で前年比 34%と前年を大きく下回り、2006～2016 年の平均に対して 49%の捕獲数となっています（図 3）。

\*サケ来遊数（沿岸漁獲数、河川捕獲数）については、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県のご協力により速報値を集計しております。また、石川県手取川については石川県水産総合センター生産部美川事業所から年齢査定に関わる調査協力を頂いております。

\*年齢が決定していない河川については、第 2 報（2 月上旬掲載予定）以降でご紹介致します。

\*サケ道県別来遊数については国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所の HP（<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>）に掲載しております。

■ 2年魚 ■ 3年魚 ■ 4年魚 ■ 5年魚 ■ 6年魚 ■ 7年魚 ■ 年齢未査定

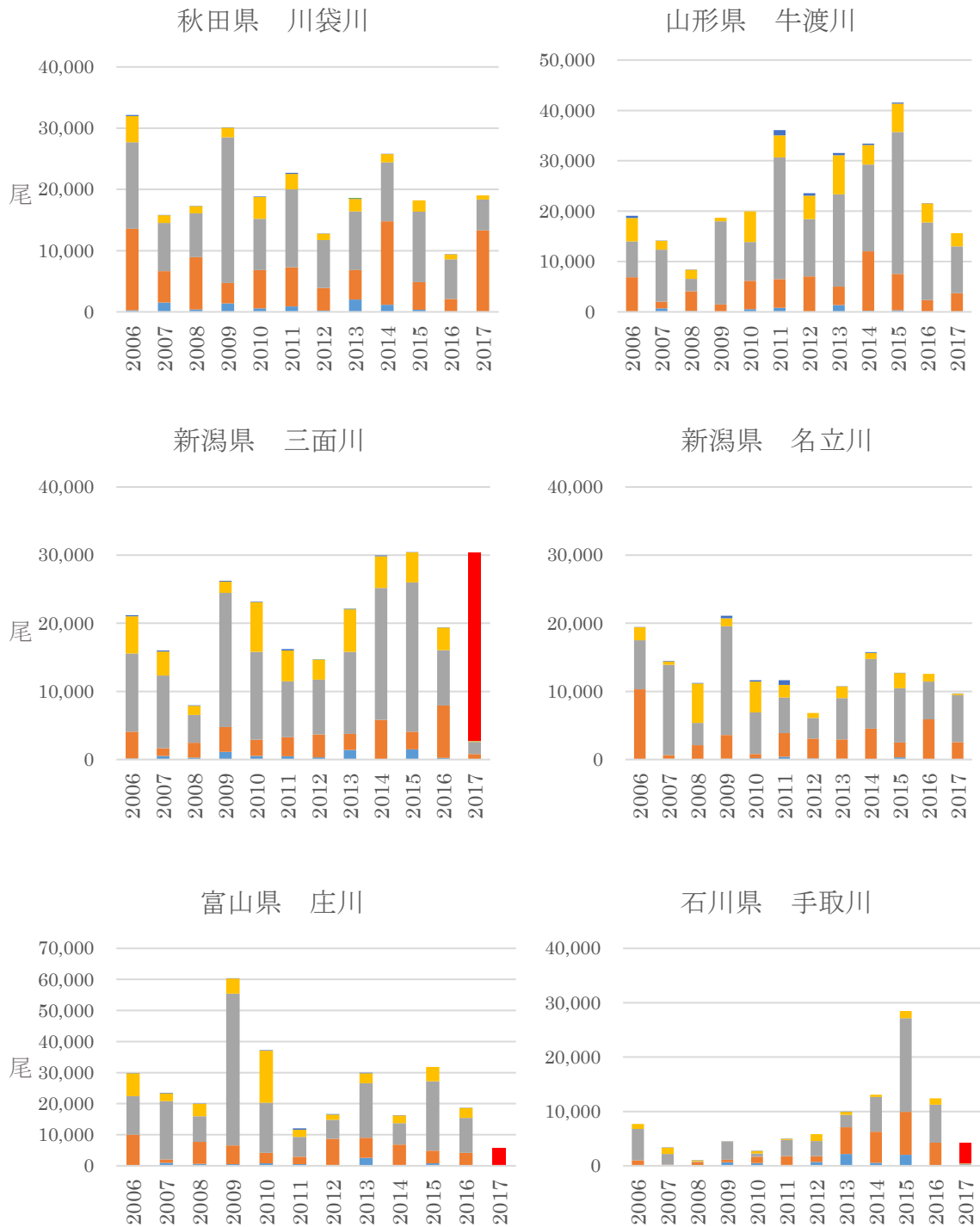


図3 年齢別の河川捕獲数（11月30日現在までの累計値）の経年変化